第6回インターンシップ報告書

2011年12月30日
国際協力専攻1年
太田華江（5311005）

【基本情報】
派遣先：UNESCO Office in Windhoek
都市：Windhoek, Republic of Namibia
勤務部署：Education Section
派遣期間：2011 年 8 月 11 日～2012 年 2 月 20 日

1. 業務内容の報告（12 月 5 日~12 月 30 日）

長期的業務に関して、以下 3 点。

① UNICEF との共同プロジェクト→Web Portal デザインの完成を待っている。出張するスタッフの出発に間に合わなかったが、前回述べたようにその他の可能性を探っていく。デザインが完成すれば用途はいくらでもあるため、まずは完成を待ちたい。

② Research Project→ナミビアにおける多言語教育の現状や様々なアクターの動きを調べている。前回の報告書で作業を中断していると報告したが、Research Project2 のコンセプトノートがひと段落したため作業を再開する。

③ Research Project 2→会議のコンセプトノートのドラフトを作成し、上司に提出した。彼女のインプット、また一緒にコンセプトを考えている研究者のインプットを待っているところである。その後、このコンセプトノートをもとに、協力している NGO とのミーティングを行う予定である。

今月は私も 12 月 2 日まで出張だったこと、またその後上司が休暇をとったこと、一緒に仕事をしている各 NGO が 12 月中旬に休暇に入ったこと、そして Office が 23 日から 29 日まで閉鎖していたことなどから、仕事がほぼストップした。改めて、仕事は自分だけで進められるものではないと実感した。

2. 到達目標の達成具合

以下、第 1 回レポートで挙げた目標について評価していく。

① 国際機関の役割と実際の運営について、実務を通し理解する

私のインターン期間も終盤に入った。UNESCO の仕事や視点は業務を通して理解できたと自分では感じる。ただ、インターンであるためか、正直 Budget に関わる実務という実務は体験していないと感じる。（9 点）

② 自身の研究を深める

今月も、研究に手をつけられていない。来月は、計画を立てて取り組んでいきたい。

（7 点）

③ 現地の教育現場の現状を理解する

今月は特に現場に行く機会が無かったが、北部にある友人の実家でクリスマス休暇を過ごした際に地元の学校の話を聞くことができた。彼女の兄弟は 8 人中 2 人が地元で教師をしている。一人は Grade10 の生徒達を教えおり、休暇中にも関わらず何故かそわそわしていた。たずねると、ナミビアでは Grade10 の時点で Junior Secondary Certificate (JSC)という試験があり、その結果を待っているとのこと。この試験に受からないと、子ども達は Grade 11 に進級することができない。今年の結果はナミビア全体で 51.5%が合格し、去年の 51.2%に比べ非常に小さな上昇となった。彼女の教え子も、数人合格しなかったという。（6 点）

④ 総合的に問題を考察する目を養う

情報は引き続き得るようにしている。今月も他の JICA の専門家の方とお話させていただいた。（7 点）

⑤ ビジネス英語

今月は特に TOR などの作成はなかった。来月は地元大学の教授や外部アクターにレターなどを書く機会がありそうなので、休暇中に一般的なフォーマットをマスターしておきたい。（8 点）

⑥ 豊かな発想力を養う

ナミビアでは、ついに雨期入りが観測された。雨季で問題となるのが洪水。洪水による被害は大きく、昨年は大雨の影響から多大な被害だったという。特に洪水によって影響を受けるのは北部の田舎である。洪水がひどいと学校も長期の閉鎖、会社も閉鎖だという。北部の人に話を聞くと、ナミビアは政府として Disaster 対策ができていないとのこと。今年はどのような対策を政府が立ててくるのか、興味があるので調べてみたいと思う。

今月は 3 人のスタッフがオフィスの移動や帰国のため、Windhoek のオフィスを去ることになった。国際機関の出入りの多さというものを、改めて実感させられた。

オフィスでの送別会の様子。私と同じ、インターンの帰国に際して。

UN のスタッフや他の友人との集まりでの一枚。

次回はついに最終報告となる。こちらにいられる後一ヶ月半、最大限に学んで来たいと思う。